

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700141		
法人名	株式会社めいと我孫子布佐		
事業所名	めいとグループホームふさ		
所在地	千葉県我孫子市布佐2198番地		
自己評価作成日	H31年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成31年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの尊厳を守り、入居者が安全・安心の中で、自立した生活を送れるよう入居者が持っている力をなるべく活かすよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内では利用者同士も良好な関係を築き、利用者の笑顔も多く見受けられています。今年度は新規職員が新たに加わったこともあり業務の見直しや利用者とも馴染みの関係が構築できるように取り組んでいます。利用者の楽しみの拡充に向けては、民謡や童謡、コーラス、フルート、折り紙、太極拳、体操など地域のボランティアの方を積極的に受け入れています。また、地域のお祭りではブースを出展し地域との交流拡大に努めるなど、地域に根差した運営にも前向きに取り組んでいます。今後もこれまで築き上げてきた取り組みを継続させより充実した支援の提供に向け前向きに取り組む姿勢が確認できました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所や掲示板に掲示しており、朝の朝礼時に読み上げる等、全員が共有できるよう努めている。	事業所の理念として「心得」(五訓)を掲示しており、朝礼時の唱和により職員の理解を深めています。日頃から五訓の中にも示している自立支援や利用者の尊厳を守ることを職員に伝え日々の支援の中で反映できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や社協をはじめ、地域のイベントへ参加・協力をしている。また、祭見学など地域の行事に参加し地域の方たちとの交流を深めている。	地域のお祭りへの参加やホームとしても地域のお祭りでブースを出展する等協力し、地域との交流を深めています。地域住民ともお花を頂くなど良好な関係を築いています。また歌や民謡、コーラスやフルーツなどのボランティアも定期的に受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護相談センター」で相談を受け付けている。掲示板等を活用し啓蒙・告知を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢者支援課の職員、民生委員、地域住民の代表等に参加いただき、貴重な意見・提案をいただき、サービスの向上につなげている。	会議には地域包括支援センター、市役所担当課職員、民生委員、地域住民代表者の参加を受け2ヶ月に一度定期的に開催しています。会議では利用者の現状やホームの取り組み内容、参加者との意見交換、市の歴史について教えて頂くなど有意義な会議としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課やなんでも相談室と、随時、連絡・調整を行っている。	市の担当課の方は2ヶ月に一度の運営推進会議に参加しており、定期的に事業所の活動内容等を報告しています。また、運営上確認が必要な事項については、担当課に連絡を入れ、適宜指示を仰ぐことができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心として、社外研修への参加や、全体会議での研修、日々の話し合いを行い、拘束を予防しながらケアを実践している。	「身体拘束廃止マニュアル」に基づき、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいます。全職員への周知については全体会議で周知を図り職員全体の意識を高めています。現在ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	身体拘束廃止に向けて組織的に取り組んでいますが、今後に向けては身体拘束廃止委員会として定例化できると良いと考えます。今後の取り組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員での研修を行っている。ご利用者の言動に注意を払い、報告・連絡を行っている。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員での研修を行っている。高齢者支援課、主治医等と連携し、支援している。必要時にご家族の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項などの書類を使用し、十分な説明を心がけている。また、改正の度にご利用者(ご家族)に説明し理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族と関わりを持っている。外部評価機関や介護相談委員を取り入れている。	家族からの意見や要望等については面会に訪れた際や電話報告を通じて確認しています。また外部の苦情窓口についても契約時に説明しています。利用者本人からの意向や要望等については日常会話を通じての収集のほか介護相談員の方も毎月来所され意向等を確認しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りを行い、意見交換を行っている。また、全体会議や個人面談を通し、施設運営に関する意見を聞く機会を設けている。	年に一度本部の取締役が職員一人一人と面談を行い意向や要望等を確認する仕組みを築いています。管理者も日頃から職員に声をかけ、意向や要望の確認のほか不安等の早期解決に向け取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の実績評価にて、個々の実績を把握し給料等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	在籍期間、能力に応じて外部研修に参加、また全体会議を通じて個々の能力を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内、同業者との交流会や研修に参加する機会を設け、自施設のサービス向上に努めている。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にご自宅を訪問したり、資料の提供、見学などに応じ、施設の雰囲気をご本人に合っているか等ご本人の安心を確保する環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご自宅を訪問したり、資料の提供、見学などに応じ、ご家族それぞれのお話が伺えるよう努力し、スタッフ同士で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連各所と連携を持ち、ご本人やご家族の希望に即した的確な初期対応に努め、その希望をスタッフ同士で共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、洗濯物を畳んだり、日常生活で一緒にできる作業を行っている。コミュニケーションに力を入れ、その情報を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご本人とご家族との関係の理解に努め、かつ、ご家族の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・縁者の面会を促し努力している。	馴染みの人や場所との関係継続の支援に向けては友人からの電話の取次ぎや親族関係の面会の受け入れ、通い慣れた美容院の継続利用や年賀状のやり取りなど利用者一人一人の要望等に丁寧に対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さりげない見守り、傾聴により、孤立することのないように支援している。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去後も、お見舞いや相談に応じている。相談に見えた方のその後についても、近況の把握や必要な情報の提供等にもつとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、出来る限り希望、意向を聞き取り、次のケアに活かせるように努力している。	利用者の思いや意向については職員が日常会話から収集し、日々の生活や支援に反映できるように取り組んでいます。また、介護相談員の方が定期的に来所し、利用者から直接意向や要望を確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族・関係者からの聞き取りを行い、資料等を通して職員に周知し、ケアに活かしている。日々の会話の中でも情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送り、カンファレスにて把握、検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてご利用者と話し、カンファレンス担当者を中心に見直しをしている。	ケアプランの作成にあたっては、職員、家族、本人、主治医、看護師等の意見を担当者会議で確認し、総合的な意見を踏まえ作成しています。毎月のモニタリングで進捗を確認し、6ヶ月毎ケアプランを更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録と連絡ノートを活用し、ご利用者の変化に気付けるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの視点に立ち、検討・実施している。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設、行事等を把握し、参加できるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでかかりつけ医との関係を大切にさせていただき一方で、必要に応じて協力病院への受診へ切り替えるなど、臨機応変に対応している。受診時にデータを用意したり、時には同行している。	提携先のクリニックへの定期的な受診やこれまでのかかりつけ医による訪問診療を通じて必要な医療を受けられる体制を築いています。また併設の小規模多機能事業所の看護師とも連携し利用者の健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを、看護師に伝え相談し個々のご利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は、病院関係者との情報交換や相談に努めている。連携シートを活用している。また、協力病院がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、その後は随時、ご利用者の「今後」について、ご家族と話し合い、方針を共有できるように努力している。	重度化や終末期に向けたホームの方針については入居契約時に家族の方に説明し、方針を共有しています。生活していく中で利用者の重度化が見られる際には、家族、看護師、主治医を交え今後の方針を検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修を開催するなど、実践力を身に付ける努力をしている。マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	より実践に則したマニュアルを作成し、地域住民やご家族の参加協力を得て、防災訓練を実施している。	平成30年8月に消防署立会いの下での訓練、31年1月には総合訓練を実施しています。避難経路図や緊急時事故対応マニュアル等も整備しているほか備蓄品については併設の本館施設で備蓄しています。家電製品のチェックもこまめに実施し安全性を確認しています。	

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重を第一に考え、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや行動をするように努力している。	法人の「心得」(五訓)を日々唱和し、内容を徹底していくことで、利用者に対して適切な対応が図れるように取り組んでいます。トイレ誘導時の声掛けや居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、出来る限り希望や思いを聞き入れて支援できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間のたまかな流れは無視できないが、一人ひとりの生活習慣や個性を大切に、余裕を持って過ごして頂ける対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみの時間を設けたり、好みの化粧品を補充したり、限られた中にも気持ち良く過ごして頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事準備をご利用者のADLに合わせ、共に行っている。楽しみの時間としていただけるよう、おやつ作りや夕食作り等を実施している。	利用者の状態を考慮しながら食事の盛り付けやテーブル拭き、後片付けなど利用者も関わる事ができるように取り組んでいます。食事を楽しむ工夫では、月1回のクッキングや外食にも出掛け普段とは違う雰囲気のを楽しめるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養士が管理している。一人ひとりの持病等に合わせた食事形態や量などを工夫し気配りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った声かけ、介助を行い口腔内の清潔を保っている。		

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら誘導している。また、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、随時、排泄ケアの検討を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を「排泄表」の記録し、排泄パターンを職員間で共有しています。排泄はトイレを基本とし、定時の声掛けや誘導によりトイレで排泄できるように日々支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好飲料や毎日の運動・歩行等で便秘予防に取り組んでいる。ナースに相談し、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう声掛けや時間帯等の工夫をしている。	利用者の体調やペースを配慮したうえで週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように取り組むほか、ゆず湯や菖蒲湯など季節風呂も楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、その日の体調や希望に合わせて空調している。夜間は、本人のペースに合わせた巡視を行っている。天気の良い日は布団を干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の用法等を常に把握できるよう管理している。服薬と症状の変化を観察し、記録と申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣、好みを活かした役割や楽しみを持ってもらうことで生活の活性化を図っている。好きな音楽、本、体操を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小グループで散歩や買い物、地域行事、日帰り旅行に出かけている。ご家族の協力を得て、外出をしている。	天候や気候の良い時期にはホーム周辺の散歩にお連れするほか年2回外食の実施、外出行事としてお花見やいちご狩りに出かけたり近隣の図書館やスーパーなどにも利用者と一緒に活用しています。また家族の協力を得て家族と一緒に外出できる機会も大切にしています。	

めいとグループホームふさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、一人ひとりの希望や能力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って対応している。手紙の作成、家族へ電話をかける等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部などに花や、季節を感じることできる装飾等を取り入れている。	廊下の壁面には、行事の写真の掲示やリビングのレイアウトも季節に合わせて装飾を工夫し、季節感が感じられるように取り組んでいます。ホーム内は清潔に保たれ、廊下やリビングには転倒の危険となる物は放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席などに気を使い、少しでも安心して生活できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の居間や寝室にあった小物を持参頂く等、工夫をし、ご利用者と共に部屋作りを行っている。	居室にはこれまでの愛用品の持ち込みを可能とするほか、家具類の配置なども本人や家族の意向を確認しています。居室内も定期的に掃除を行い衛生面に配慮し、居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの自立を大切に、理解力に合わせた表示方法を工夫している。		